

甲佐町議会だより

第91号

平成12年1月25日



清流

発行 〒861-4696 熊本県上益城郡甲佐町大字岩下194 甲佐町議会 ☎(096) 234-1111 編集 議会広報編集特別委員会

撮影 池田和生氏(緑町)

朝焼けの甲佐岳

町の東方に位置し標高753mで別名「甲佐富士」と呼ばれている。頂上からは眼下に緑川、東に矢部郷、南に九州山脈の連峰、西に熊本平野・有明海の大パノラマが展開する。

最近、遊歩道も完成して初心者の登山に大好評！

12項目の意見を付け10年度決算承認 2～3 P

議員さん、それだけは聞いてハイヨ！ 4～5 P

一般質問 町のビジョン・活性化を聞く！ 6～10 P

新しい選挙管理委員決まる 11 P

傍聴席から一言 研修報告 富山県の中学校に学ぶ 12 P

平成11年12月定例会は、12月10日に招集、14日までの5日間の会期で開かれ、9月より継続審議となっていた平成10年度各会計の決算の認定、町長より提案の条例改正、補正予算など12件、いずれも原案どおり可決した。また任期満了に伴う選挙管理委員会委員改選の選挙が行われ、新しい委員と補充員を選出しました。

12月定例会

平成10年度決算

甲佐町会計別決算総括表

会計別	歳入	歳出
一般会計	5,261,489,915	4,952,348,164
国民健康保険特別会計	1,408,101,583	1,254,704,331
老人保健特別会計	2,350,059,950	2,318,031,033
有線放送特別会計	58,894,693	43,681,099
住宅新築資金等貸付特別会計	5,580,094	5,323,316
総合計	9,084,126,235	8,574,087,943

平成10年度一般会計と国保会計など6会計の決算については、収入、支出額とその内容の審査が膨大になる為、6名の委員で構成する特別委員会を設置して、この審査を議会の閉会中に審査して来た。

行政改革を求め意見を付して

平成10年度決算85億円を承認する！

地方分権社会の

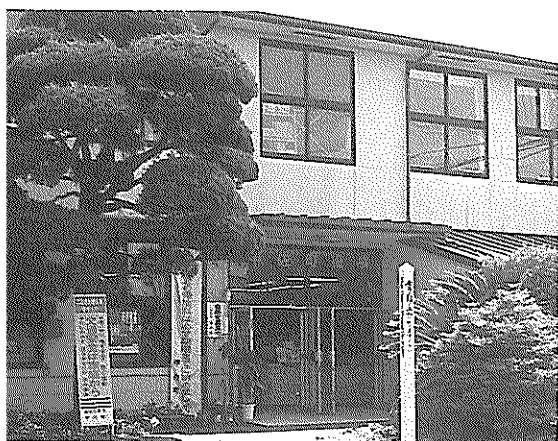
備え万全に！

特別委員会では、予算執行担当の19課について課長より説明を求め、予算の執行状況や投資効果の必要性、法令に違反した執行などを主眼におき、慎重に審査した。その結果、決算状況に大きな問題は生じておらず、ただ今後、地方分権社会の到来を迎えたとき、本町としてはそれに耐え得る行政機構の改革を実施する必要がある、議会としては早期に行財政改革に取り組むことを指摘するに至った。

町税の徴収率

アップを！

また、町の主な収入となっている町税、国民健康保険税、住宅使用料、有線放送使用料、水道料などの徴収率が減少傾向にあり、税の公平性から考えた町当局の一層の徴収率アップを要望することになった。



行政改革を目指す甲佐町役場



決算審査特別委員会

平成 10 年度決算の指摘事項は 12 項目

問題解消に向け積極的な取組みに期待！

1、行政改革に取り組み！
 地方分権社会を迎え、課の統廃合と職員削減も視野に入れて積極的な行政改革に取り組むよう要望する。

2、町税等の 不能欠損は慎重に！
 町税、国保税、水道や住宅などの使用料の徴収率が低下している。滞納者に対しては精力的に鋭意努力されているが、効期限到来に際し、安易に不能欠損処理せず、時効中断の方策や不能欠損の理由を明確にすること。

3、公共工事は年度内完成を 目指せ！
 年々繰越事業は減少している。今後、当該年度の事業実施にあたっては開発公社の活用による先行取得に心掛けて早期発注、年度内完成を目指すこと。

4、シルバー人材センター 設置を急げ！
 現在、町内の体育施設や公園管理については、町内の人や部落に管理委託しているが、今後は一元的な管理組織を設置して町内施設の管理運営にあたり、町民の幅広い人材活用に取り組む為、シルバー人材センターの設置を検討すること。

5、公共用地の 境界杭の設置を！
 本町は公共工事の完成後は隣接地との境界杭がほとんど設置されていない。将来において隣接者とトラブルを引き起こす原因にもなるため、早急な設置と町有財産の適切な管理を望む。

6、津志田河川公園利用者に 清掃協力金を！
 津志田河川公園は年間7万人の利用者が見込まれている。公園施設には年間100万円の管理費を支出しているが、現在、公園よりの収入はない。今後は施設管理に充て可能な収入の方策の検討を望む。



7、不登校・いじめ対策を 積極的に！
 本町では補助事業により町内の小中学校4校にスクールカウンセラーを巡回配置し、11年度で終了する。今後とも調査研究の結果を踏まえ、不登校、いじめの問題解決に積極的に取り組むこと。

8、多くの生涯学習の場を！
 現在、生涯学習の場として多くの公民館講座を開催しているが、今後は講師の掘り起こしと指導者の人材確保に取り組み、新たな講座の開設と充実を望む。

9、国保、老保会計 医療費の高騰で赤信号！
 高齢化に伴い、国民健康保険や老人保健会計の医療費の支払いが増加傾向にあり、厳しい状況となっている。現在建設された、予防医療の立場から各種住民検診保健課、住民課の所管課だけでなく福祉生活課、社会教育課との連携により生涯学習の中で「心と体の健康対策」「健康と生きがい対策」の両面において積極的な取り組みを望む。



10、有線電話の 加入促進を図れ！
 平成10年度に60件の新規加入があり、加入促進の効果が表れ町全体の加入率は62%に達した。引き続き積極的に加入促進を望む。有線電話使用料、工事負担金の未納分の徴収については一層の努力を望む。

11、漏水を防止し 有収率のアップを！
 水道事業は増収増益となり経営は上昇傾向にある。今後は計画に老朽管の更新と漏水の防止に向け努力を望む。

12、イベントを見直せ！
 本町は各種団体やイベントなどに対して多額の負担金、補助金を支出している。今後は社会の変遷を踏まえ時代に即応しているかどうか、またその効果について見直しを望む。

これだけは まいておきたい

今期提案された条例6件および各会計
予算案について審議がおこなわれ、以下
審議の要点を要約してお知らせします。

論 点

条例・予算審議より

Q & A

**台風災害に対する
町の補助制度はな
いのか？**

Q 1 台風18号の被害による農
業施設の救済制度はあるが、
作物被害に対する助成はな
いのか、また、税の減免措
置等の考えはないのか。

A 1 現在、特に町自治体によ
る助成はなく、共済制度で
対応している。税の減免に
ついては、来年の所得申告
にまかせており、10年度に
ついては考えてないが、災
害による町税減免条例に
よって研究したい。

**町税、使用料の徴収に
努力を**

Q 2

平成10年度、各会計決算
については、町税や使用料
等の落ち込みが見られ、又、
安易な不能欠損処理でも困
るわけだが各担当課におけ
る徴収状況を聞きたい。

A 2 税務課長

景気低迷が大きな原因と
思うが、9年度において税
務署の修正申告等があり、
申請が遅れた関係で、その
分を翌年度に繰り越したも
のもあり、徴収率の低下に
なった。また、現年度分の
徴収を主体とした関係もあ
ると思う。今後も夜間徴収
にも一層力を入れて努力し
たい。
住民課長



上豊内の異常出水状況

台風18号は多くの家屋にも被害を与えた



国保税については、今日
の社会情勢に起因し年度途
中から国保に加入された方
も多いわけだが、来年度か
らは新たに介護保険の税も
加わり、国保の運営も厳し
い状況が予想される。10年
度から取組んでいる国の徴
収促進事業を活かしながら
十分努力したい。
福祉生活課長

保育料については、現年
度分は、相当の収納率を上
げている。金額は少なくても
毎月相手方と連絡を取り
時効処理にならぬよう努力
している。
建設課長
町営住宅使用料について

**上豊内の異常出水
の原因は何か？**

Q 3 は、前年度に比べ滞納額は
増加している。現在、各滞
納者については、話し合い
の中で、ボーナス時期での
支払い方法等の検討により、
努力して徴収に努めたい。
文書広報課長

有線放送使用料について
は、現年度、9年度の未納
者はないが、それ以前の分
が滞納になっている。今後
の徴収に努力する。

A 3 上豊内の箇所については、
これまで残塩調査、貯水槽
の潜水夫による調査の他7
箇所の試掘を行った。12月
に入り里道を5箇所掘削し
2箇所から漏水が発見され
たので修理を行い経過を観
察している状況である。

上豊内地区で先般、異常

臨時職員の採用 規定は？

Q 4

民間企業には、臨時職員を採用するにあたっては、採用規定を設けてあると思いが、本町においても臨時職員採用の規定は考えられないか。

A 4

今後、意見を踏まえて検討したい。

防犯灯設置補助 10基分を予算化！

Q 5

部落防犯灯設置補助金が予算化されたが、どういった内容か、またヤナ場から上揚までについては設置計画はないのか？

A 5

町内の台風18号被害に伴う10基分の設置補助であり、ヤナ場から上揚までの防犯灯設置については、建設省と協議したい。

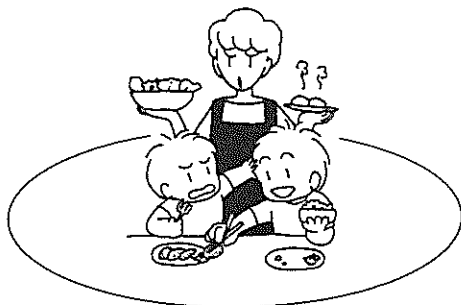
21世紀に向け ビジョン作成！

Q 6

今回の補正予算で企画費の中で総合計画調査委託料として346万5000円を計上されているが、どういった内容か？

A 6

現行の甲佐町総合計画は平成12年度までの期限であり、今後10年間を見据えた新甲佐町基本構想を策定することになるが、従来の担当課中心ではなく住民参加の町づくりを目指す意味で住民代表26名、職員12名、



それに県費による地域アドバイザー1名を加えて様々な角度から構想を練り、分析をしていくための経費を今回計上した。

少子化対策臨時特別 交付金の使途は？

Q 7

少子化対策として今回予算化された臨時特別交付金とは、こういった性質のものか？

A 7

少子化対策臨時特別交付金については、保育園等の遊具施設修理やチャイルドシート10個等、その使途については各保育園が保護者に貸し出しするなどの方法で対応する。



防犯灯が設置された中学校通学路(高校~中学校間)

ごんじ休憩



教育談義 “命の大切を学ぶ”

関東地方のある県では、一昨年から小学校に獣医師を派遣して、学校に内科や歯科の先生が校医としているのと同じように、動物を扱う獣医さんを校医として派遣するようになった。

犬や猫、ウサギやアヒルなどさまざまな動物を子供たちが直接、肌でふれてみる。

「あたたかいなあ」、「心臓の鼓動が自分とくらべて多いなあ」といったことを体験させるのである。

聴診器をもって動物の心臓にあててみる。自分の心臓の鼓動も聞いてみる。そして共通点があることが分かって、子供は喜びが沸いてくるようだ。

今後はこれをもっと広げて年齢の低い幼稚園、保育園にも派遣したらいとよいと思う。

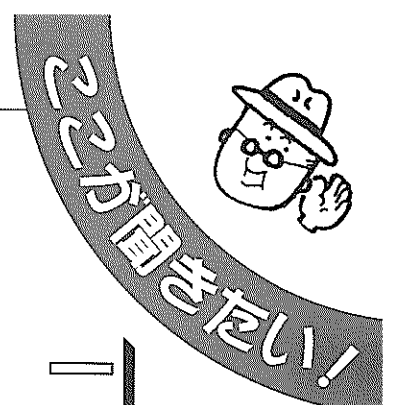
動物とのふれあいによって、動物は単なる人間の道具ではない、鑑賞用のものでもない、地球上に人間と同じ生き物がいると

いうことを子供たちに体験して分かってもらおうと思うからである。

最近、日本で低年齢化した残酷な事件が勃発している。

子供を狙った犯罪、動物の虐待、二十一世紀の時代を担う子供たちに「命の大切さ」「心のやさしさ」を体験学習させるのも教育ではなからうか。





「一般質問」と

「答弁」

第4回定例会の一般質問は12月13日に5人の議員が登壇、町の施策をただした。

甲佐中学校の改築の計画はあるか?

北畑常博議員

現段階では計画はない

町長

北畑議員

甲佐中学校の建物については大規模改修が必要だと聞いているが、どのような考えなのか。

町長

一時は大規模改修の話もあったが、昭和46年に建てられたということで、耐用年数等からすると改善の時期ではなく、現段階では改築の計画は持っていない。

北畑議員



校舎の雨漏り、窓枠についてはどうするのか。

町長

建物の傷みがひどい箇所は、修理を行いたい。

中高一貫教育が必要では?

北畑議員

協議して行きたい

町長

北畑議員

中学、高校いわゆる中高一貫教育を推進する必要があると思うが。

町長

特色ある小中高一貫教育を確立する必要があり、教育委員会、議会と協議して行きたい。

教育長

県教育委員会に本町の中高一貫教育について話をしているが、先日の県教育審議会の答申においては、「中高一貫教育の必要性を指摘するにとどめた」となっている状況である。

北畑議員

町は学校教育に努力していない、人材育成のために一層努力すべきではないのか。

町長

一生懸命、勉強して町にふさわしい学校をつくって行きたい。



建築後30年を経過した甲佐中学校

町財政 今後の見通しは!

北畑議員

北畑議員 助役、収入役もできたことだし、町長もより一層の活動ができると思うが、町の財政の今後の見通しは?

町長

国は600兆の負債を保持しており、県も財政危機になっている。これからの事業は、重点的にやって行かなくてはならないし、県も必要になる。今後、国の助成をお願いしたい。

介護保険の取り組みは!

北畑議員

北畑議員 介護保険は国、県の施策であるが、その実施に向けてどの様な状況か?

町長

認定審査会で自立と認定された人をどうするか、基盤整備が大事で、現在検討努力中である。



県でも中高一貫教育への取り組みが始まった

台風18号被害対策は！

田上益男議員

国の支援制度を

活用したい

町長

田上議員

台風18号では、甲佐町は相当な被害を受けた。現在では復旧がかなり進んだが、民有林の風倒木の処理が遅れている。被害の状況と、今後の対策について聞いた。

田上議員

今後については、国の支援制度に準じて検討し活用して行きたい。

町長

山林の被害については、被害面積3.8ヘクタールである。その内、復旧を要する面積は2.65ヘクタールにのほり、金額にすると1160万円である。復旧については、台風の風倒木処理事業で50%の補助制度がある。また、チェーンソー等の簡易な機具の購入についても同様の補助がある。

経済課長

山の被害を考える時、二次災害が懸念されるが、その対策と被害を受けた山や立木の税金対策はあるのか。

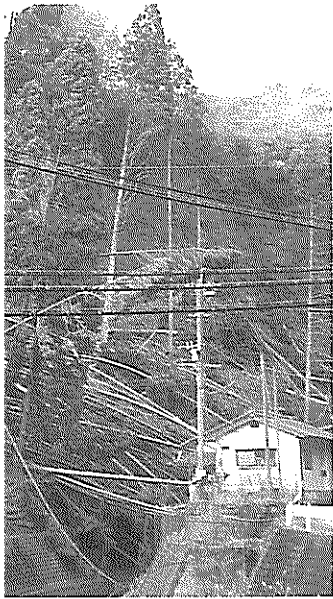
経済課長

二次災害の防止対策については、山林所有者の申し出により現地調査を行い、国、県の治山事業（予防治山、復旧治山）で対応していく。

税務課長

山に対する固定資産税の減免はない。災害により地目の変更が生じれば現状地目で評価課税を行います。

税務課長



台風18号による風倒木状況

国道443号
車椅子に配慮した歩道を！

田上議員

矢部土木に要望したい

町長

田上議員

国道443号線に歩道の整備が必要ではないか。歩道の車両進入禁止パイプにより車椅子が進入しづらい。またガードレールで橋梁の見通しが悪い。



車椅子や電動式車椅子に不便な歩道用ガードパイプ(大町地内)

町長

歩行者の安全については、再三、土木事務所等に陳情している。今後、日和瀬橋から国道の改良が進むが、早速、歩道の整備も同時に行う様、矢部土木に要望していく。

課長

再三、矢部土木事務所に歩道整備を要望している。最低幅員2mが必要であり車椅子が進入できない歩道ではないので、段差の解消を申し込みたい。ガードレールの高さの基準は1.1mであるが、ガードロープへの変更を県当局へ要望して行きたい。

緑川河川敷の公園化を！

田上議員

清正公山に遊歩道、安津橋左岸に
グラウンドゴルフ場を検討中！

町長

田上議員

平成2年4月策定の「リバーサイドパークイン甲佐」の事業の中で、津志田河川自然公園、井戸江峡キャンプ場、中甲橋、日和瀬橋間の緑のプロムナード、麻生原キンモクセイ公園の整備が完了しているが、今後、清正公山、白旗山、そして安津橋左岸の整備について町の考えを聞きたい。

町長

「リバーサイドパークイン甲佐」については、順次整備を進めている。清正公山については、森林浴、バードウォッチング

経済課長

来年度以降において、甲佐町の観光施設の整備計画を策定して観光開発の促進をはかりたい。

等、自然を觀賞する為の遊歩道の整備を、また白旗山については津志田自然公園とマッチして大変美しい景観が広がっている所であるので、やはり遊歩道等の整備をしたい。又、安津橋左岸については、低水位護岸を整備してグラウンドゴルフ場等を視野に入れた運動広場を建設省に要望していく。



グラウンドゴルフ場整備が検討されている安津橋上流左岸

鮎祭り五〇周年目を迎え

検討を!

高木英吉議員

町民からアイデアを募集中!

町長

高木議員

来年は鮎祭りが始まってから五〇年になると聞く。

いろいろなイベントが行われて、多くの人々を集められてはいるが、「近頃、鮎祭りもマンネリ化しているのではないか」と言う声もある。

町の活性化に役立っているのか。この機会に検討が必要ではないか。経済課長

鮎祭りは地藏祭りが由来で五〇年を迎える。行事としては作り物、鮎供養、少年野球、ゲートボール大会、鮎のつかみ取り、子供樽みこし、盆踊り、最後に花火

大会と相当の人数である。

行事は鮎祭り実行委員会で開催し、そのメンバーは町長、議長、商工会の各種部長、校区代表区長など総数で構成し鮎祭りを計画している。

町長

指摘の鮎祭りについては、来年が五〇周年を迎えるわけで、実行委員会ですっかり見直し検討もするが、町民の皆さんから斬新なアイデアを広く募り、活性化につながるようにしたいと思う。

高木議員

町長の答弁では、まだ具



今年は50周年目を迎える鮎祭り(子供樽みこし)

体的な計画はないようだが、すみやかに検討され、すばらしい祭りになるようお願いしたい。

河川敷公園の管理と実態は!

高木議員

津志田河川公園の利用料を検討する

町長

高木議員

甲佐大橋が平成13年春に完成すると、麻生原運動公園の利用者は増加する。大橋から目と鼻の先のこの公園を散策してみると、チリ、空ビン、空カンなどが散乱し、草刈りはしてなくて公園

志田部落の青空市場のみに許可している。それ以外には許可していない。夏には氷屋さんが来られると聞くが黙認している。

町長

管理は町で行っている。

麻生原運動公園は利用者が少なく、今後、どう運営して行くか検討して行く。

高木議員

津志田の河川自然公園について建設費や管理費、利用状況について明らかにして欲しい。

経済課長

津志田河川公園整備の費用については平成元年から7年までに総額1億572万円使って整備して来た。また、「桜つつみ」については平成7年から9年までに約1000万円で桜の植樹を進めて来た。

利用者数は平成7年に5000人、8年54000人、9年67000人、10年69000人と増えている。管理費はトイレに年間100万円、水道料に49000円となっている。

町長

公園内での物品販売は津

志田部落の青空市場のみに許可している。それ以外には許可していない。夏には氷屋さんが来られると聞くが黙認している。

高木議員

公園整備に多額の投資がされ、更に管理費も使っているのに入場料は無料ですが、このままいいのか町長の見解を聞きたい。



町内外の人々で大賑わいの津志田河川自然公園

シルバー人材センターの設置を急げ!

高木議員

早急に設置するよう検討する

町長

高木議員

長い不況からの脱出が出

来ず、厳しい社会状況である。現在、定年退職された方で、まだまだ元気な方々が沢山おられる。高齢者でも働くことができるシル

バー人材センターを設置し、例えば町の公園、施設の管

理等をお願いすべきだと思

うがどうか。

町長

シルバー人材センターについては、私もその必要性を認識している。住民の間でも要望されており、早急に高齢者の方々を組織し、人材センターを設置するよう考えていく。

早急に設置するよう検討する

町長

早急に設置するよう検討する

町民が夢の持てる町づくりを！

本田昭一議員

町の基幹産業である農業ビジョンを策定中

町長

本田議員

町長の公約として、子供が夢を持てる町づくりと掲げられているが、子供の前に大人が夢を持てる町づくりを目指し、経済活動を支援すべきである。

今日、若い人が定着する町づくりに努力すべきではないか。

町長

大人の夢と言えば、経済活動の事だと思ふ。

本町の経済活動の中心は農業であり、町の基盤だと思ふ。今、農業ビジョンを策定し、農業関係者に提出しお諮りしている。

本田議員

「町の発展は、農業を基盤としている」と言う町長の答弁ですが、農業振興を図るうえで農協との連携が必要である。農協職員を派遣してもらい農業対策室を設置したり、役場内に農業の専従班の設置など考える。

てほしい。

町長

農協との話し合いや交流は、緊密にする必要があると思ふ。ただ、専従班等については、今後の課題である。

役場庁舎の建設予定地はどこか？

本田議員

庁舎建設委員会を設置して考えたい

町長

本田議員

町のシンボルとして庁舎の建設を希望する声が聞こえてくるが、当然町民の負

本田議員

地域にとつては施設園芸が盛んな所もあるが、水不足に悩んでいる。上水道では経済的に高くつくので地域共同のポンプアップ施設に対し助成できないか？

町長

水不足の地域については、調査を行いたい。

担も増加する。早く庁舎建設について示すべきではないか。

町長

町民のニーズが一番大事だと思ふ。町民にとつて親しみやすく、足を運べる庁舎を作りたい。

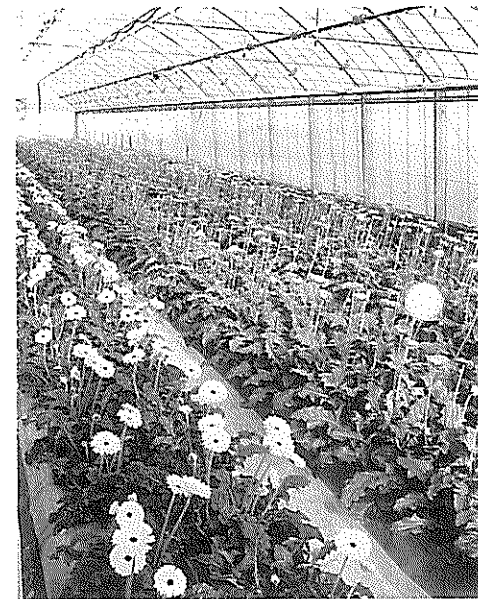
本田議員

場所の選定も必要になってくるが、当然、庁舎の規模によつて場所も異なってくる。これについてどう考えるか。

町長

庁舎建設場所は、私が勝手に決められない。庁舎建設委員会を設置して幅広い意見を聞いて建設したい。

本田議員



水不足に悩む船津地区花木栽培施設

庁舎建設となると多額の財源が必要となる。町の財源確保はどうなっているか。

を建設する為には建設費の半分程度の自主財源が必要である。不足分は借入金でまかなう。庁舎建設にはもう少し時間がかかる。

町長

町民の要望に応える庁舎

町道六谷坂谷線の危険箇所を復旧を急げ！

道路拡幅を含め道路改良が必要

助役

本田議員

本田議員

町道六谷坂谷線の六谷地内において、陥没した危険な箇所があり、先だつて事故も発生している。早急な町の対応を望むが。

総合的に道路の拡幅を含めて対応しなければならない。

助役

私も現地を調査している。道路面が路肩より30cmほど陥没しているし、排水が道路の中央を流れている状況です。

県道と町道の接点であり、

本田議員
稲生野甲佐線は現在、単車事業で工事を実施している。早期完成を目指し国庫補助事業に引き上げてほしい。また中横田鶴線は、竜野地区にとつて重要な道路であるが、道路改良の考えはないか。

町長

稲生野甲佐線は、地元の要望で改良工事を進めているが、国庫補助事業が可能かどうか、矢部土木に要望したい。

耕地課長

中横田鶴線は、平成13年度において農政サイドの基盤整備促進事業で、国の補助事業の採択を受けて取り組むたい。



早急な道路拡幅が叫ばれる六谷地内

介護保険の 低所得者の救済を！

佐藤義郎議員

住民サービスに向け 社協にも窓口を設置

町長

佐藤議員

高齢化社会を迎えて介護が必要であるが、過日発表の厚生省によると、次の項目の問題点があるので申しあげる。

○訪問介護が84%、デイサービスが72%という状況でまだ改善を要する。

○介護保険の負担について、これまで国は45%を32.6%の引き下げと検討中ということで、各町村に負担がかかる。

○国民に対する個人負担

26・2%を42・4%に引き上げるとなっている。

○介護保険対象の中で76%の人々が住民税非課税者であり、こういう人から保険料を取る上に、サービスを受けたら1割の負担をさせるといふことは生存権の問題である。

○認定制度でコンピュータを導入してあるが、介護等に当たっているホームヘルパーの方々を認定業務に携わせる等、審査会の改善をすべきた。

○2号保険者の非課税者からも介護保険料を取ることに對して助成措置を考へるべきだ。

以上、町として手を打つべき所は打ち、政府に申すべきことはしなければならぬと思うが、町長の見解を尋ねる。

町長

認定審査結果等についてはH12年の1月下旬から2月にかけて決定の予定である。

社会的体制整備が変わるので、介護保険の相談窓口ばかりでなく社会福祉協議会にも窓口を設置したい。事務体制の整備では、コンピュータによる行政システムの構築が進んでいる。

認定事務については広域連合でやっており、本町では介護申請予定者が522名で申請受付が244名、認定審査受理数157名が12月2日現在での状況である。

また自立と認定した方については、福祉事業で行うということを検討中である。



介護保険認定審査会の認定審査風景
(上益城広域連合)

公債比率の状況から町政運営をどう図るか

佐藤議員

安全・健康・福祉の充実を

町長



3億8千万円の費用で建設が進められている
総合保健福祉センター

佐藤議員

公債比率の現状、そして今後の比率の状況はどうなるのか。

総務課長

H11～20年までの公債比率の見込みはH11年11.3%、12年12.3%、13年13.2%、14年15.4%、15年17.5%、16年19.5%、17年16.9%、18年18.7%、19年17%、H20年16.6%と試算している。この中でH16年では数値が上昇しているが、これは減税補填債の一括償還分がこの年で出て来る。

佐藤議員

公債比率が予測されると、投資的経費として使われるのわかる中、今後の町政運営について、何を重点においてされるのか。

町長

行政運営は総花的なこととは出来ないで、取捨選択して事業することになる。行財政改革を踏まえ、重点的には安全・健康・福祉を中心に運営をしたい。

企画課長

町長の意志を受け、安全を守るについては総合防災行政無線で5500万円かけての整備、健康面についてはH12年に完成する保健福祉センターを拠点としてハードとソフトの充実・スタツフの充実を行う。福祉では介護保険給付金の負担1億879万円を組んでいる。

佐藤議員

今年の公債比率は11.3%と良好な状況の中、町長は将来に何を重点的にもって町民の要望に添えていくのかお尋ねする。

企画課長

新しい基本構想策定のための準備を始めている。

選挙管理委員会

新しい選管委員決まる

本町の選挙管理委員会の委員は、1月19日に4年間の任期満了を迎えた。「選挙管理委員会の委員は地方自治法の規定により議会において選挙する」と定められており、本町議会では12月議会において指名推薦により、新しい選挙管理委員を別紙のとおり選出した。なお委員の欠員を生じた場合の補充員も同時に選出した。任期は平成12年1月13日より平成16年1月12日まで。

(選挙管理委員)

校区	氏名	住所
宮内	赤星 秀昭	甲佐町大字上揚八八二
甲佐	上田 久	〃 〃 大町六〇一―二
乙女	新田 修	〃 〃 麻生原六二九
白旗	緒方 文二	〃 〃 早川七八一―一

(選挙管理委員補充員)

竜野	① 佐川 紫郎	甲佐町大字下横田二一九
甲佐	② 掘住 克美	〃 〃 仁田子六九三
乙女	③ 林 一人	〃 〃 世持三八六
白旗	④ 岡田 信一郎	〃 〃 芝原一〇一六

※補充員氏名の番号は選管委員の補充の順序

上益城議会对抗ビーチバレー大会

熱戦快汗!! 堂々三連覇!

11月13日、上益城郡の議会对抗ビーチバレー大会が15チーム(本町議会より2チーム出場)の参加を得て矢部町において開催された。

これは郡内議会議員の団結と親睦を深める為に毎年開催されている。各議員とも日頃は舌舌戦には慣れているものの、いざビーチバレーとなると「悪戦苦闘!」ユーモア溢れる珍プレーの続出に場内は爆笑の渦、熱戦の末、5試合を勝ち抜いた甲佐町議会のAチームが堂々3連覇して幕を閉じた。



上益城議会对抗ビーチバレー大会で三連覇した甲佐町議会チーム

知ってますか?

議 会 用 語

定例会と臨時会

定例会は、定期的に招集される議会で、地方自治法で「毎年、四回以内において条例で定める回数、これを招集しなければならない」と規定されています。

本町では、毎年四回と定めており、時期は三月、六月、九月、十二月に議会を招集されています。

臨時会は、必要があるとき特定の事件に限り、これを告示し、その事件を審議するために招集される議会です。

定例会は条例で定める回数で招集されますが、臨時会は必要があれば回数に制限なく開くことができます。

会議の原則

議会では、会議を運営する上で次のような基準があります。一部例外もあるがそれを原則として運営します。

- ① 議事公開の原則
- ② 定足数の原則
- ③ 過半数議決の原則
- ④ 議員平等の原則
- ⑤ 一議事一議題の原則
- ⑥ 一事不再議の原則
- ⑦ 会期不継続の原則
- ⑧ 現状維持の原則
- ⑨ 委員会審査独立の原則
- ⑩ 公正指導の原則

傍聴席から一言

2000年を迎えて

境 栄一郎 (緑町)



新しい年を妻と3歳になる息子と無事健康で迎えられたことに喜びで一杯です。皆様におかれましても本年が良い年になるようにがんばっていきましょう。

本年は、2000年と千年紀の節目の年となります。4月から公的介護保険制度が実施されます。この問題は、中高年齢者だけでなく私達若年層に大きな関心事です。現在我が国は600兆円の借金を抱え、行財政改革は進んでおりません。この制度が将来子供たちに負担をかけないよう、またこの町に十分活用できるよう期待します。

本町にとりましても、農林商工業の衰退・少子化、若者の流出それに伴う高齢化とさまざまな問題を抱えています。交通網が整備され、情報通信網が発達し、人々の行動範囲はますます広がってまいりました。何とかして、「甲佐町は、こんないいところだよ」、「こんどこぎゃんこつがあるけん遊びこんね」と言えて、土日だけでも、良く言うなら定住できるような施策を期待します。また町民に意識改革を勧め町は町民を愛し、町民は町を愛するよう「金がないなら知恵を出し、汗を出し」町は小さいけど住んどらす人は活き活きとしとらすといわれるようがんばってください。

こんな事を書きましたが、私自身議会には興味がなく議場には足を運んだ事がありません。できることなら傍聴人を任命制にし、軽い会食など出来たらいいと思います。

また議会だよりは、せつかくならば議員さんたちの顔が見えるようにシリーズ風にプロフィールや、信念信条、今後の抱負や日程など書いてもらって、町民と理解しあえたらいいと思います。

来年から21世紀の始まりです。甲佐丸が順風満帆の船出が出来るように、ちゃんとした海図(長期ビジョンのスキル)を作成して下さい。

議員研修報告

地域に開かれた学校施設に学ぶ

本町議会では10月25日から28日にかけて緑川ダム選取取水施設の設置に関する国会陳情と埼玉県本庄市教育委員会ならびに富山県福光町吉江中学校の視察研修を行いました。

本庄市教育委員会においては、行政改革の一環として学校用務員を臨時、嘱託、民間委託で対応されており、その実施経過については、行政改革委員会の行政改革

基本計画に基づき昭和53年から学校用務員の退職にあわせて臨時職員へと切り替えられ小中学校あわせて11校の内すでに10校が臨時職員の配置で運営され1人あたり年間215万円の節減が図られています。

今後、学校用務員の雇用年齢は65歳まで予定し、それ以降はシルバー人材センターへ委託していく方針とすることでした。

また、吉江中学校は、文教施設のインテリジェント化に関するパイロット・モデルとして平成7年度から10年度までの学校施設の改築に伴い、今日、文部省においても盛んに唱えられて

いる学社融合問題をとらえ、教科教室型運営と地域開放に対応し得る文教施設として完成した施設で特色としては、メディアセンター、技芸棟、ランチルームの他、図書館の外部などに広場、庭を設けて外部との一体化を図った配置となつていました。また、エネルギー棟を設置し、暖房、融雪に100トン程度の可燃ゴミの固形燃料(RDF)を利用

しリサイクルと環境保全に貢献されていきました。

今回の研修を行い学んだことは本庄市の学校用務員の配置のあり方、富山県吉江中学校の学校施設と教育のあり方など、今後の地方分権の推進に伴い多くの事務・事業が、市町村に移って来ることを考えるとき、21世紀に向けて地域間競争に本町が生き抜いていくには、どのような行政改革、財政改革を推進していくのか大きな課題が求められています。スクラップ・アンド・ビルドのキーワードを軸にして議会・町執行部ともども、知恵の結集を期待し研修報告といたします。



富山県吉江中学校のランチルームを視察する議員団

編集後記

新春のお喜び申し上げます。本町では1月9日に13

2名の若人が集い、いろ華やかに又厳粛の中で成人式が行われた。二十歳になると選挙権が与えられるが、最近よく耳にする言葉に「若人の政治離れ」がささやかれる。

これからの社会は若い人が高齢者社会を支えることになり、地域社会への参加が大事になって来る。政治に関心、興味を持ってもらい、若い人達も町政に参加してもらい、町づくりを行うことが必要と思われる。

そのためには、この議会広報は非常に重要な役割を持っている。議会審議の内容、議会の活動状況などを分かりやすく町民の皆様に告知せし、町の動きを的確に伝える使命を担っている。

本年も町民の皆様のご協力を得ながら、編集委員一同は親しみ易い紙面づくりに頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

